

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
教育課程・学習指導	A	確かな学力の育成	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	○研究部の各部会で研究推進の進行管理を行うとともに、「子どもに身に付いている力」「身に付けさせたい力」を明確にし、子どもの育ちや学ぶ姿を主体とした校内研究会を組織的に実施する。	○学校評価アンケート(児童用)で「学力が向上した」と回答する児童90%以上[H22:90.1%] ○学校評価アンケートで「研究部の進行管理により、校内研修が計画通りに実施され、研究が深まった」と回答する教職員100%	○年度当初の計画に従い、定期的に各部会を実施できた。 ○学校評価アンケートで、94%の児童が「学力が向上した」と回答している。(特に「そう思う」が21.2%増加)	○児童に「身に付いている力」と「身に付けさせたい力」を明確にしたうえで、本年度の実践を生かしながら、学年の系統性に応じてどのような言語活動を取り入れ、どのような形で提示し、表現させていくかをさらに研究していく。	○年次の課題である基礎学力の向上・定着を目標に、研究部体制を組み、組織的に、全教職員が、一致協力して、校内研修を実施し、確実に学力を向上させている。更なる教職員の資質の向上を期待する。 ○習得・活用・探求を明確化した単元指導計画の研究については研究部の各部会で、研究推進の管理を行い、校内研究会を組織的に実施できている。 ○家庭学習の習慣化については、個別指導・家庭への継続した啓発活動を実施。「予習-授業-復習」のサイクル化を図り、家庭学習の有用性を児童に実感させる授業により、定着していくものと思われる。98%の児童が毎日家庭で学習できていることは、ほぼ定着しているように思われるが、その内容と質が問題である。 ○本年度の実績を生かし、今よりさらに高い目標に向けて、学力の向上、「子供に輪を授けよう」を、研究・実践して頂きたい。 ○学習にとき、組む児童の授業態度がしっかり出来ている。 ○全教職員が、向上心をもって取り組んでいる環境で、子供を育てて頂くことに感謝している。	S
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	○付けたい力の系統性を明確にし、基礎的基本的な知識や技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力を育成できる授業を実施する。 ○「学びのある交流の場がある授業」「広がりや深まりを生み出す交流のある授業」を目指した授業改善を行う	○学校評価アンケートで「分かりやすい授業に努めている」と回答する教職員100%「授業が分かる」と回答する児童90%以上継続[H22:92.7%] ○授業評価アンケート(児童用)で3.8点以上(4点満点)[H22:3.7]	○学校評価アンケートで、100%の教職員が「分かりやすい授業に努めている」と回答している。 ○学校評価アンケートで、98%の児童が「授業がよくわかる」と回答している。 △授業評価アンケート(児童用)では、3.7点で昨年度並みであった。	○授業づくりスタンダードを基に教師も児童も学びの見通しを持ち、ユニバーサルデザインの授業づくりを行う。 ○習得・探求・活用を明確にした単元指導計画を研究していく。		
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	○「予習-授業-復習」のサイクル化が図られる単元づくり・授業づくりを進める。	○生活アンケート(児童用)で・予習をしている80%以上(H22:88.6%) ・復習をしている80%以上(H22:91.2%)	△生活アンケートでは、予習・復習ともにH21年度の割合ははるかに越えたが、H22よりも低下しており、80%を達成できなかった。 ○学校評価アンケートで、「毎日家庭で勉強している」と回答した児童98%(昨年度比0.6増加)保護者88.2%(昨年度比で4.1増加)であった。	○「予習・授業・復習」のサイクル化を図るために、予習・復習の内容について年度当初の校内研で確認し、取組のいっそうの充実を図る。 ○生活・学習習慣アンケートの時期を見直し、結果を1・2学期の成績相談で児童・保護者に伝え、家庭学習の習慣化を促す。		
生徒指導	A	豊かな心の育成	規範意識の醸成や高い「志」の育成	○目的・目標を明確にした道徳教育(道徳的な体験活動、特に家庭や地域と連携した活動)や道徳的な価値の自覚につながる道徳の時間の指導を充実させ、児童の道徳性を高めるとともに高い「志」を育てる。 ○道徳実践の場としての特別活動を充実させ一層の関連化を図る。 ○総合的な学習の場を通して、自らの生き方や将来について考える取組を継続して行う。	○道徳アンケートで ・「道徳の授業が好き」と回答する児童90%以上 [H22:86.1%] ・「学校のきまりを守っている」と回答する児童90%以上 [H22:90%] ・「将来に向かって努力する人間になりたい」と回答する児童100%[H22:100%]	【道徳アンケート】 △「道徳の授業が好き」と回答した児童は、82.2%で90%に足りなかった。 ○「学校のきまりを守っている」と回答した児童は、96.6%であった。 ○「将来に向かって努力する人間になりたい」と回答した児童は、99.3%でほぼ達成できた。	○児童の道徳的価値の自覚が深まる授業をめざし、道徳の授業研究を継続して行う。 ○特別活動・総合的な学習等での体験活動を活かして、道徳実践力の育成を図る。	○豊かな心の育成、規範意識、高い志の育成を目標に、道徳教育に取り組んでいる現状は、素晴らしい一言である。今後も、家庭や地域と連携して、子供の心に感動や喜びを与える授業をして頂きたい。 ○「将来に向かって努力する人間になりたい」と回答した児童が99.3%に達していることは、学校・家庭の取り組みや地域性に合っていて、大変素晴らしいことだと評価する。 ○児童の道徳的価値の自覚が深まる授業や、道徳実践力の育成を継続して頂きたい。	A	
				保護者や地域住民の参画を得た学校運営の推進	保護者や地域住民と連携を図った教育の充実	○「学習習慣の手引き」を活用し、児童の学習習慣を確立させる取組を充実して行う。 ○学校支援地域本部との連携を密にし、学校支援ボランティアの活用を積極的にを行い、保護者・地域の教育力を取り入れた取組を進める。 ○学校・学級だよりやホームページの内容を充実させ、学校からの情報発信をより積極的に行う。	○学校評価アンケート(児童用)で、「家庭学習をしている」と回答する児童95%以上[H22:97.4%] ○学校支援ボランティアの活用延人数200人以上[H22:233人だが本年度は3年生の米作り廃止、5年生時での実施となったため回数減] ○学校評価アンケート(保護者用)で「情報提供を積極的に行っている」と回答する保護者90%以上[H22:88.1%]			○学校評価アンケートで、98%の児童が「家庭学習をしている」と回答している。 △生活・学習習慣アンケートでは、予習・復習の結果が昨年度より低かった。 ○学校支援ボランティアの活用回数は、12月末現在で延198人となっている。 ○学校評価アンケートで、91.8%の保護者が「情報提供を積極的に行っている」と回答している。 △学校のホームページの更新回数が少なく、十分な活用ができなかった。
学校独自	B	健やかな体の育成	健康・体力の向上	○保護者と連携し、早寝・早起き・朝ご飯など児童の基本的な生活習慣の確立を図る取組を行う。 ○体育の授業の充実や個人カルテの作成、年間を通した学年チャレンジ運動、児童会活動の活性化により、体力向上の取組を進める。	○学校評価アンケート(児童用)で「生活リズムが身に付いた」と回答する児童90%以上 [H22:81.6%] ○体力調査結果で、全学年児童の結果がH22年度より数値が向上し、全国平均(C)もしくはそれ以上となる。	○学校評価アンケートで、90.6%の児童が「生活リズムが身に付いた」と回答している。 ○体力調査結果で、昨年度より向上し、5年男子児童以外はC以上となった。	○児童が自律的な生活ができるようになるために、生活調査・テレビ・ゲーム視聴プログラムづくりを実施し、結果を学級懇談やPTA広報で伝え、その後の指導や家庭への啓発に生かす。 ○体育のいっそうの授業改善を進めると同時に、学校全体で体力向上をめざす取組の工夫を行う。	○学校・家庭の連携で、基本的な生活習慣は、かなり確立できているように見受けられるが、将来に備えての体力づくりを、継続して積み上げていく方法として、朝は、運動場を必ず2週ランニングするとか、縦割り班で、長縄跳びをするとか。考えてみてはどうか。 ○体育の授業の充実や個人カルテの作成等により、体力向上の取り組みを進めている。学校を訪問する度に、児童の体格が、大きく、立派になっていくのを感じさせて頂く。 ○保護者と連携し、早寝・早起き・朝ご飯など児童の基本的な生活習慣の確立を図る取り組みを行っている。朝食関係があることで、児童が食事の内容に関心を持つようになった。 ○体育の一層の授業改善を進めると同時に、学校全体で体力向上を目指す取り組みの工夫を行う。 ○いざと言う時役立つ持続した体力づくりの実施。 ○登下校時には、体力増進のため、胆力増強のため、自力で歩かせるように、特に車での送迎は、望ましくないと考える。	B	
				資質・指導力の向上	PDCAサイクルによる組織的な授業研究の充実	○国語科で、各学年1回の全校授業研究会を行い、思考力・判断力・表現力を育てる授業実践を積み重ねる。 ○全ての学級で道徳の時間の質的な充実を図る校内授業研究会を行う。	○授業評価アンケート(児童用)でアンケート結果3.8点以上 [H22:3.72] ○授業力診断(教員用:自己評価)で、年度当初の自己診断結果より年度末の自己診断結果を上昇させる。			○計画通り、国語・道徳の授業研究ができ、授業改善や指導力向上が図られた。 ○授業評価アンケート(児童用)結果で、3.8点となった。 ○授業力診断(教員用)は、昨年度と本年度の当初比較では、ほとんどの項目で上回っていた。(年度末に調査した結果をヒアリングで提示予定)
学校独自	A	資質・指導力の向上	PDCAサイクルによる組織的な授業研究の充実	○国語科で、各学年1回の全校授業研究会を行い、思考力・判断力・表現力を育てる授業実践を積み重ねる。 ○全ての学級で道徳の時間の質的な充実を図る校内授業研究会を行う。	○授業評価アンケート(児童用)でアンケート結果3.8点以上 [H22:3.72] ○授業力診断(教員用:自己評価)で、年度当初の自己診断結果より年度末の自己診断結果を上昇させる。	○計画通り、国語・道徳の授業研究ができ、授業改善や指導力向上が図られた。 ○授業評価アンケート(児童用)結果で、3.8点となった。 ○授業力診断(教員用)は、昨年度と本年度の当初比較では、ほとんどの項目で上回っていた。(年度末に調査した結果をヒアリングで提示予定)	○国語・道徳の全校授業研究会を実施し、講師の指導助言をいただき、「思考力・判断力・表現力を育てる授業づくり」「道徳の時間の質的な充実を図る授業づくり」を推進する。 ○特別支援教育に関する校内研修計画を作成・実施して児童理解を深め、個々の児童の特性に応じた支援・指導の充実を図る。	○全学級で国語・道徳の時間の質的な充実を図る校内研究会を行うという取り組みについては、計画通り、国語道徳の全校授業研究会が実施でき、授業改善や指導力向上が図られた。 ○授業力診断(教員用:自己評価)で、年度当初より年度末の結果を上昇させる。という取り組みについては、殆どの項目で上回っていた。 ○これまでに、心に響く道徳の時間になるよう、発問の工夫、言語活動の充実、板書の工夫など指導方法の工夫・改善を図っていく。という課題に対しては、授業力診断は、殆どの項目で上回っていた。 ○組織的な校内研修体制が確立され、全教職員の真摯な取り組みがなされていることは素晴らしいし、とても心強く思う。より高い目標に向かって、今後も継続して、研修を続けていくことを期待する。	S	